



竹中 理議員

国民から選ばれる 豊岡市に！

豊岡DMOについて

問 着地型観光を行う上での利点と弱点は。出石・竹野・日高など市内全体へ波及する取組みはされるのか

答 雇用創出効果やまちづくりの活性化も期待される。弱点はかなりの労力と時間がかかる。その割に薄利。売れるまで相当のエネルギーがいる。



豊岡DMOに期待

「地域の稼ぐ力を引き出し、高める」
- 地域マーケティング戦略の推進
- 収益事業の実施

市内全体へは地方創生という観点からご指摘の方向で頑張る。

問 今後、観光協会とDMOとの関係は

答 6つの観光協会とそれを束ねる連絡調整の豊岡ツール協会で緊密に連携し進めていく。

地域コミュニティの地域づくり

問 高齢者が運転免許を手放し、買い物や通院時に手助けがある。共通の課題として市のメニューをどう考えるか

答 今後、他の自治体などの取組みも参考にしながら、地域コミュニティ組織による運営の可能性など、それ

手放し、買い物や通院時に手助けがある。共通の課題として市のメニューをどう考えるか

それぞれの地域に合った交通手段を検討したいと考えている。

育休退園について

問 待機児童の数と育休退園の数は

答 平成28年3月1日現在28人。豊岡地域24人、竹野地域4人。育休退園した児童は40人である。

問 待機児童が出ないよう保育園をつくることや保育士の処遇改善が行政の仕事。平成29年は検討するとう方向だが早いうちに考えていただきたい

答 保育士不足は事実。施設では受け入れられるが保育士が足りないため、見合わせるケースがある。年度前に育休の申請があれば保育士確保もできる。情報を早く知らせていただければ制度や影響についてのお知らせをしたい。

育休退園についてのお知らせをしたい。



浅田 徹議員

若者、避難所、高齢者住宅 火災の対策を問う

地方創生は若者をターゲットにしながら、若者が主体に取り組む事業・予算がない。若者自らが取り組んだり主役にする仕掛けや支援する仕組みが必要ではないか

答 以前の青年団のような組織化は困難だが、地方創生の実現に若者の参画は欠かせない。若者が地域で必要とされたり、認めてくれる仲間を実感

問 行政別ハザードマップ作成で、住民意見を反映した避難所見直しをされた。また、要介護者の安全な避難支援と適切な避難所の確保は、地域の共同には限界があり、公助が必要と考えるか

答 避難所の見直しは、住民の意見も参考にしながら、その場所の安

全性が判断の基準になる。また、要介護者の避難は、個別支援計画の策定が重要で、8月に市民総参加訓練を実施し、取組み強化につなげたいと考えている。

問 住宅火災が増加しているが同居や障害のある高齢者宅の防火対策の現状はどうか。火災を発生させない取組みとして、地元組織や社会福祉団体と連携した積極的な啓発活動が必要と考えるか

答 民生児童委員の協力を得て、防火点検を行っており、加えて福祉の緊急通報システムに火災警報器を設置し、自動通報できる取組みを行っている。今後は、社会福祉団体に加え、地元にも訪問時のより分かりやすいチェック表やリーフレットなどを作成し、防火体制の強化を考えている。

「市民会館の青少年室」かつては若者の活動・交流拠点。今は...



市政を問う



松井 正志議員

但馬地域医療構想策定 病院・介護への影響は

信号機のない交差点 カラー舗装が効果あり

問 策定中の但馬地域医療構想は、病院機能や病床数に大きな影響を及ぼし、在宅医療や介護のあり方などを左右する。地域実態を踏まえてどのように臨もうとしているか

答 本市だけで医療を支えられないので、但馬の一員として全体を見ながら方向を定めたい。

問 策定委員会では、さまざまな観点で議論が進んでいる。住民へいつごろ情報提供を行う考えか

答 構想は県が策定することになっていたので、県の様子を見たい。

問 農山村、市街地で今後も増加する買い物弱者の実態把握ができていますか。その支援対策を行う必要性を認識しているか

答 実態把握は行っていない。福祉だけでなく、産業、交通、地域コミュニティ等を含め検討していくことが必要である。

発生状況を考慮しながら検討したい。

問 日高町の鶏糞処理施設について、改善に向けた作業が進んでいるようだが、今後の見通しは

答 8月末に該当施設への搬入を終了する行程表が出ている。2月末に市外の直営農場の鶏糞ポイラーの火入れが行われたと確認している。

問 カラー舗装により、出合い頭の事故防止に大きな効果があった場所がある。加古川市では、事故多発交差点でカラー舗装を行い、その効果の実証実験を行っているか

答 危険箇所での注意喚起には大変効果があると考えられており、危険度、事故等の



信号機のない交差点では人も車も安全第一

常任委員会、特別委員会の動き 管内・管外行政視察

各常任委員会、特別委員会では、各種事業の先進地の調査、事業の執行状況確認、行政関連施設等の現状・課題の把握などのため管内・管外行政視察を行っています。

総務委員会 4月14日 消防活動計画に係る現地視察・消防本部の視察

木造住宅密集地区における消防活動計画について現状と課題等を確認し、また、消防本部において、重点施策の確認や救急救命シミュレーション、消防活動のシミュレーション、消防指令センターでの通報処理方法等の確認を行うとともに意見交換を行った。

交通網問題調査特別委員会 4月15日 京都市後鉄道の現状と課題について視察

※ワイラートレインズ社で研修を行い、会社の概要、京都市後鉄道の事業状況、沿線自治体である豊岡市との連携について説明を受け意見交換を行った。

防災対策調査特別委員会 4月15日 防災備蓄倉庫等を視察

防災備蓄倉庫及び浸水標柱（標高表示）について、市防災課の説明を受け、その後市内長谷地区整備中の急傾斜地崩壊防止工事の状況について、兵庫県豊岡土木事務所職員から説明を受けた。



木造住宅密集地区における消防活動計画について現地を視察



リニューアルされた特急「丹後の海」



豊岡土木事務所の職員から説明を受ける委員（長谷工区）

※「ワイラートレインズ社」とは運行する会社。 本社は宮津市。京都市後鉄道を